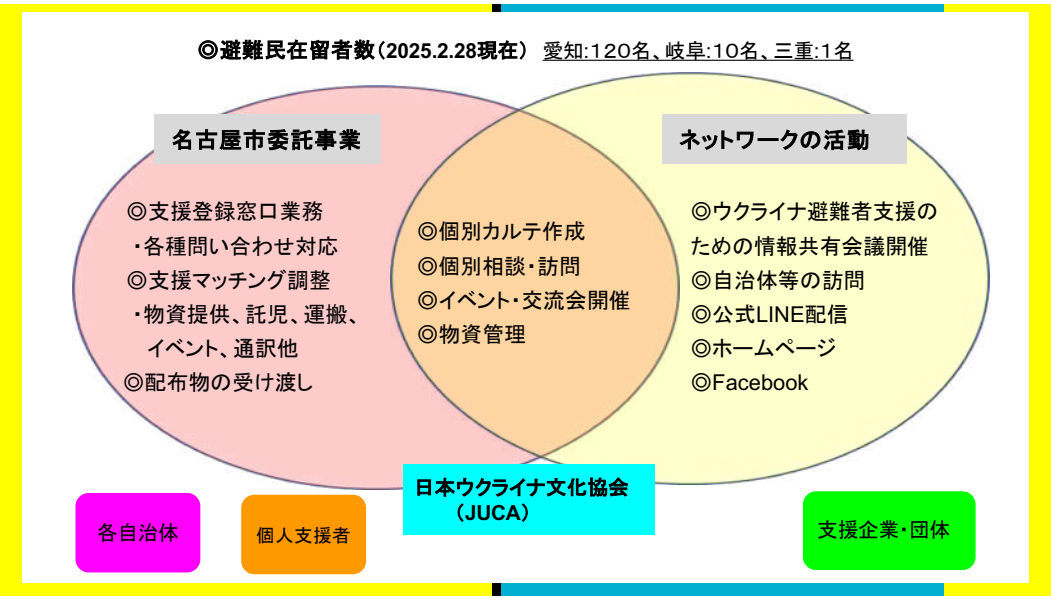
活動

支援ネットワークでは、どのように支援に取り組みましたか

名古屋市委託事業と　支援ネットワーク独自の活動

支援ネットワークでは、事務局であるRSYが名古屋市より受託した事業と、支援ネットワークとしての活動の双方に取り組みました。

（名古屋市の支援登録窓口に登録しつつ、名古屋市在住以外の避難民も対象に支援された団体・個人もあります。）



日常的な個別相談・同行支援

個別相談で対応した内容は、引越しや運搬、住居、健康相談、各種行政手続き、生活物資など年間で3500件（2023年度）を超えています。

個別支援・同行支援はP42参照

	2022年度	2023年度
生活物資	186	213
民間支援	203	478
住居（更新・転居先）	34	205
引っ越しや運搬	83	432
健康相談	6	383
不安・悩み相談	50	80
各種行政手続き	35	253
スマホ・タブレット関連	71	79
就労就学	51	147
その他	90	1216
合計	**809**	**3486**

専門家による相談会の開催

専門家・支援団体・行政等の協力で、2023年、2024年に大交流・相談会を開催しました（P53－62参照）。

また支援金の贈呈機会でも、司法書士・行政書士・名古屋市による相談体制を取りました（P 37）。

支援物資の提供

避難者の方々が自由に立ち寄り、支援物資を持ち帰ることができるスペースを、RSY 事務所のある名古屋建設業協会の建物２階に設置しています。

新規で転入された方に物資棚を案内し、いつでも物資を取りに来ることができ、またそのついでに相談もできることも併せて伝えています。また、新たに物資提供があった際に公式 LINE に情報を配信しています。

セルフドリンクコーナーを設け、用事がなくとも

気軽に立ち寄れる場所としての機能も目指した。

陳列スペースに限りがあることと、常時棚に品物が並べられているようにするため、在庫保管場所を

設け在庫の管理も行っています。

事務所に来られない方には希望があれば物資の郵送をしたり、個別訪問時にお届けすることもある。衣料品は春夏／秋冬の季節に合ったものを陳列し、シーズンごとに入れ替えています。

支援物資の提供は、支援登録者をはじめ、ネットワークと繋がりのある数多くの企業、NPO・個人の協力によるもので心より感謝を申し上げます。継続的に食品類の提供を受けているが、食品に関しては消費期限を定期的に確認し、せっかくいただいた提供品が無駄になることがないように心掛けています。

民間支援者（宗次徳二氏）による支援金の贈呈

カレーハウスCoCo壱番屋の創業者である宗次氏が避難者の方々に少しでも安心して生活してもらえるようにと一人につき 10 万円の支援金を贈られています。贈呈される避難者へは、支援ネットワークが各自治体を通じて出欠確認を行い、新規に来日した避難者も支援が受けられるように複数回開催しています。また、併せて交流会を実施し、コープあいちご協力による軽食、茶菓子を頂きながら交流促進の場作りをしています。同じ東海地域に暮らしていても初めて会うという避難者同士が同郷の話をし、涙する場面もありました。また、第２回目では、司法書士にご参加いただき、ミニ相談会を実施、起業や就労に関する相談にご対応頂きました。本贈呈式実施準備において、各自治体との連絡調整を行うことで、名古屋市以外の避難者の現況確認、漏れなく支援を届けるための連絡先の把握等の副次的効果もありました。

①2022 年 11 月：避難者 23 人　②2023 年８月：避難者約 40 人、③2024 年７月、避難者 36 人参加。2022 年５月～9 月にかけて、日本ウクライナ文化協会（JUCA）を窓口としても贈呈の機会が実施されており、宗次氏より多大な支援が提供されています。

合唱グループの活動支援

2023 年秋、RSY スタッフの呼びかけにより、避難者の方々による合唱グループが結成された。最初は、2023 年 11 月 12 日天白区民文化祭への参加を目的として練習に励むこととなった。元々ウクライナでは、人が集まると自然発生的に合唱が始まるなど音楽好きな方々が多い。そのため、呼びかけには想定を超える 15 名ほどの方々が集まり、自分たちで演奏曲を決めたり、楽器が得意な方は伴奏をしたりするなどして大変意欲的に参加されていた。文化祭以後も、他団体からの呼びかけにより、劇団の舞台やコンサートへ参加するなど発表の場を持つこととなった。

避難者は支援される側になりがちであるが、自らが発案したり、グループを作って定期的に集まることで、創る側となり、日本での生活に活力をもたらすことになった。

劇団チアトルドームへの参加（2024 年 8 月 30 日千種文化小劇場にてコンサート）、2024 年 2 月 24 日ジャクユーサポートコンサートへの参加、大交流会での合唱発表。

各種イベントの開催

避難生活における楽しみとして、また日本人や避難者同士の交流を目的とし、様々なイベントや交流会を開催しました。内容に応じて、公式 LINE を通じて避難者や身元保証人等全体へ参加を募った企画、孤立しがちな若者単身世帯などターゲットを絞って参加の声がけをした企画もありました。

ヘアサロンや鍼灸整体師から「なにか協力できることはないか」、農園から「収穫体験をしないか」、スポーツチームから試合観戦や募金実施の提案など、多方面からの声がけにより実現したものが多く、お礼を申し上げます。支援ネットワーク主催のイベントに関しては、日頃避難者と関わる中で聞こえた「気軽に日本語でおしゃべりできる場がほしい」というニーズから「にほんごカフェ」を実施するなどしましたが、さらに定期的に実施する必要性を感じています。

招待イベントの案内

「名古屋市支援登録窓口」やネットワーク宛に招待頂いたイベント等について、避難者への参加呼びかけ、集約、当日同行などを行なってます。

これらのイベントへの参加を通じて、「リフレッシュになった、日本文化を体験することができた、一緒に参加した方との交流になった」等の感想を頂いています。また、スタッフもイベントに同行することで、避難者との関係を深めたり、何気ない会話から相談につながるなどの効果をもたらしています。

名古屋市ウクライナ避難民支援登録に基づくマッチング（各登録件数）

・親の日本語教室時に子どもをどうするか→託児ボランティアをマッチング。
・生活に必要な家財の調達→支援登録やネットワークの繋がりを介して調達。また、寄付金より購入。
・調達した家財等の運搬→運搬ボランティアの要請。または、ネットワークで配達。
・生活消耗品の調達→支援登録やネットワークの繋がりを介して。遠方へは発送。
・就労希望→希望の職種について調べる。ハローワークに繋いだり、問い合わせや調整・履歴書作成。
・各種申請について(市営住宅入居・転入手続き・資格外活動許可・在留資格・確定申告・減免 他)
　→内容別に詳細を問い合わせる。確認後、申請用紙の代筆や同行。
・病院を探してほしい(歯医者・眼科・整形外科・内科・精神科)→必要であれば、予約し同行。
・日本語の学習について→居住地域の自治体や支援団体に相談。学習ボランティアとのマッチング。
・避難民と認定されていない方について→居住地の自治体に相談し、どの様な支援ができるかを考える。
・日本の運転免許取得について→詳細を調べ、問い合わせや日程調整・必要書類の調達・試験の同行

＊身元保証人とのやりとり
＊個別に困りごとなどの確認 (SNS で繋がっているので、個別の質問等は多い)
＊居住場所等の都合により、普段会えない方への個別訪問
＊事務所来訪者の対応（各人に応じた物資の配布・相談対応・世間話による聞き取り）
＊各種交流会やイベントの開催

〇<u>物資提供</u>（企業・団体：24、個人：81 ）
※同じ方よる複数項目の登録を含む）

中古の家具家電、食品、飲料、生活雑貨、衣料品、文具、自転車、おもちゃ等が主な提供内容。
基本的に提供品の状態を写真等で確認した上で、避難者へニーズ確認をし、マッチングしたものだけを受け取るシステム。衣料に関しては、避難者への確認や状態の確認が困難な為、新品のみを受け取る。ただ、特に避難者受け入れ当初は本当に多くの方々から物資提供の申し入れを受けたが、着の身着のままで避難された方もおり、衣類や生活雑貨も大変有難いものであった。

《支援者の声》

弊社のコンビニ物流センターで発生した破損品の活用から始まり、よくある一方的な支援（自己満足）とならないように、必要な物を提供することを念頭に置き、あっというまに 2 年。みなさんとのやりとり、イベント参加などあった中、私たちの存在価値にも気づきました。小さなことでもコツコツと出来る者が行う。事業を営み協力支援出来ることに感謝するということです。ボランティアさんを含めた支援者の方々の存在。労力や物資やお金の不足への協力者の存在。この存在価値は避難者の方々への支援が目的で、目的達成のために避難者の支援は企業などの役割と考えます。社会的役割＝義務として、今後も何かあれば協力する所存です。

（Man to Man Assist 株式会社 取締役社長：食品や生活物資の継続提供 2024 年 4 月 25 日開催情報共有会議にて）

○言語ボランティア

（企業・団体：3、個人：２６ ※英語通訳も含む）

相談ではなく世間話のような些細な会話を楽しみたかったり、簡単な返答をしたいのにそれすらできない事はお互いにとって大きなもどかしさ感じることが本当に多い。

また、どんな相談対応を行うにしてもまずは言語の壁にぶつかる為、ウクライナ語またはロシア語が話せる方の存在は大きい。さらに登録者数は少数の為、大変貴重な支援である。主に交流会やイベントでの通訳として協力いただいているが、日々日本語の環境で生活する中で、母国語で話ができることはほっとできる瞬間であり、心を許してくれる方も少なくない。

○託児ボランティア

（企業・団体：７、個人：３６）

名古屋建設業協会の建物内にある会議室の無償貸与を受け 2022 年の 6 月より JUCA 主催の日本語教室が定期的に行われていた。

教室開講当初はまだ就園・就学先が見つかっていない子どもたちもいたため、授業中に子ども見守る託児ボランティアが必要となり、教室の隣部屋の一角に託児スペースを設け、託児ボランティア登録者に依頼しご活躍いただいた。

一クール 3 か月間（10:00-13:30）で、2024 年冬までに全 6 回開講された。日本語教室の他、交流会やイベント時にも託児ボランティアに協力いただいている。

○運搬ボランティア

（企業・団体：８、個人：１８）

物資の提供をいただく場合、小物に関しては事務局に配送いただいたり、スタッフが引き取りに伺うケースもあるが、大型家具や家電の提供に関してはどうしても運び手やトラックが必要となる。市営住宅で新生活を始めるにあたり、冷蔵庫・洗濯機・テーブルセットが最低限必要となる。提供先や搬入先にエレベーターがない建物もあり、これらの家財を運ぶためには運搬ボランティアに大変活躍いただいている。避難者自身も運搬を行うこともあり、引取り先や搬入先、また移動中にボランティアの方と交流する機会もある。

《支援者の声》

・（運搬の移動中の車内で）避難者の事が何もわかりません。でも何かできるかもと思って登録しました。教えてください！今名古屋にどの古来の人が避難していますか？どうやって生活しているんですか？日本語は話せますか？日本語の勉強をしているんですか？自分ももっと勉強します。（個人）

○学習ボランティア

（企業・団体：１７、個人：７７）

多くの方に登録いただいているが、学習方法の違いや言語の問題により、なかなか活躍いただけていないことが大きな課題である。せっかくの申し出が無駄にならないように、工夫を重ねて協力いただける機会を設けたいと思っている。

○専門職を活かしたボランティア（企業・団体：5、個人：3）

・美容師：特に避難当初は、美容・理容室を見つけても言語や髪質の問題等によりなかなかヘアカットを行えていない方が多かった為、RSY 事務所の一室を即席美容室にし、過去計３回のヘアカットを行っていただいた。

・整体師・鍼灸師：様々なストレスを抱えた避難者にとって、“マッサージ“という言葉は非常に魅力的であり、ヘアカットと同様に事務所内で過去 2 回、マッサージ体験を行っていただいた。また当ネットワーク主催の大交流会では、相談交流会のお楽しみコーナーにマッサージスペースを設け、多くの方が施術を受けた。鍼灸はほとんどの方が初めての経験であったが、マッサージと共に大人気で、皆さんに満足いただけた。

・司法書士・行政書士：『ウクライナを支援する愛知の司法書士有志の会』より司法／行政書士による法律相談対応を担っていただき、交流会時に相談コーナーを設けたり、過去 2 回の大交流会でも専門家としてお越しいただき、通訳を通して避難者の相談の対応をしていただいた。また、日頃から避難者対応をしているスタッフ持ち掛けられた相談の中で、専門性のあることに関してはスタッフより直接相談させていただく事もある。日本人スタッフとはいえ、行政手続きや法律についての理解が不十分であることが多い為、スタッフが相談できる場所があることも大変心強く、有難い支援である。

《支援者の声》

・ロシアによるウクライナ侵攻が始まって以来、ずっと自分に何かできる事はないかと考えていました。今回施術の機会を頂き、避難民の皆様に少しでも喜んで頂けたのなら、大変嬉しく思います。（整体師）

〇イベントへの招待など

（企業・団体：２４、個人：３３）

名古屋城や動物園・水族館などの公共施設やスポーツの試合観戦をはじめ、日本文化のイベントやコンサート等、これまでに本当に多くの招待を受けている。悪化する本国の状況により常に精神的なストレスを抱えている避難者にとっては、この楽しい時間が一時でもストレスを忘れさせ、心を癒してくれるという、とても意味のある支援である。避難先を日本に選んだ理由の一つに、『日本文化に興味があるから』という方も多い。

〇その他

上記項目に限らず、『できることがあれば何でもします！』という登録者も少なくない。

特に支援登録制度が始まった当初から現在に至るまで、生活協同組合コープあいちより多岐にわたる支援をいただいている。【支援例】イベントや交流会時の軽食提供、運搬、組合員による支援ネットワークへの活動支援金の寄付

《支援者の声》

2022 年 2 月のロシアによるウクライナへの全面的な軍事侵攻に対し、生活協同組合コープあいち理事会は、戦争による国際紛争の解決、自国主張を相手に押し付けようとする武力行使に断固反対する立場から軍事侵攻の即時停止と平和的解決を求める声明を発表しました。また、同年 4 月に実施したウクライナ緊急募金（ユニセフ）には多くの組合員から寄付が寄せられました。そんな折、官民連携の避難者支援のネットワーク「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」が設立され、このことをきっかけに地元のウクライナ避難者を支援するため、名古屋市の支援登録制度に「輸送支援」「食品支援」で企業・団体登録することになりました。

東日本大震災の避難者とウクライナ避難者の「ししゅうの会」では、同じ避難者どうしが共通の趣味（手芸）を通じて穏やかで楽しいひと時を過ごしています。2022 年 11 月から開催してきたことで、今では、孤立しがちな避難者にとって大切な居場所となっています。コープあいちは「ししゅうの会」の昼食用食材を毎回寄付しています。支援登録制度に登録し、支援者（事務局）との関係を維持できたことが、一過性の支援ではなく、息の長い支援につながりました。（生活協同組合コープあいち）

どのように個別支援・同行支援を行いましたか

信頼関係とコミュニケーションを大切に

・実際に同行等の支援を行い、母語の通じない方が異文化の地で暮らすことは、誰かの助けがなくてはできない事があまりにも多いと実感した３年間でした。避難者からすれば、私共の様に「ウクライナ避難民を支援している」と謳っているとは言え、はじめて出会った言葉の通じない日本人に頼みごとをする事に戸惑いもあったことでしょう。特に支援当初は通訳者や翻訳アプリを使用し交流を図っていましたが、侵攻から逃れてきた精神的疲労に加え、煩わしさなどによるストレスを感じていたと思います。それでも、初対面した後に言葉を交わし、その後もあらゆる手段でコミュニケーションを取りながら信頼関係を築き、ぽろりと悩みごとや相談をしてくださるようになりました。「支援者」と「避難者」という立場を超えて、「人」として話をする中でしか聞こえてこない話もあります。支援を行う上で、段階を踏んだコミュニケーションは非常に重要であり、最も大切にしていることです。

支援を「受ける」、から能動的な活動へ

・避難という形で来日された方々にとって、精神的な問題はどの方もお持ちです。各種イベントの参加や交流会などは一時でも苦痛を逃れるのに大きく貢献していると考えます。
・東日本大震災によりこの地方に避難された方が行っている『パッチワークの会』と、刺繍をはじめ手芸を好む方が多いウクライナ避難者が交流する『ししゅうの会』を立ち上げました。国籍は違えども、この地へ避難してきた方同士だからこそ理解できる気持ちもあります。また、避難者が主体的に活動する『合唱サークル』も立ち上がりました。音楽が聞こえれば踊りだしたくなる国民性もあり、歌うことを好む方も多いです。「歌っている時は苦痛を忘れられる」と語っていた方もいます。
・苦難の中避難されてきた方々にとって少しでも何かの支援に繋がればという想いで活動しておりますが、支援を受ける側にも『支援受け疲れ』は起こります。一方的に支援を受けるだけではなく、「自分も誰かの為に何かできることはないか」とか「自分たちが受けた支援を日本人に返したい」と考える方も少なくありません。令和 6 年能登半島地震では、支援ネットワーク事務局である RSY が行った募金活動や被災地への炊き出しに多くの方が参加されました。
・日本で生活する中で、自身の生きがいもちろん、自分が他者にできる事などそれぞれが能動的に活動できることも大変重要なことだと感じています。

【支援の一例：身元保証人がいない、又は身元保証人に頼れない事情がある場合】

◎名古屋市への転入希望時点（他県からの転入）
＊住宅内見に合わせ、当人と送迎場所などの確認とその調整
＊住宅内見・契約の同行（通訳者と共に）
＊入居にあたり、必要な家具家電の当人に確認(人によって、最低限の必要家具家電が異なる為)
＊確認した必要家具家電の調達・運搬
→提供者とその運搬者の募集。その引取りに関して提供者と運搬者との日程調整
＊当人・入管庁・名古屋市役所・住宅供給公社へ転居日等の調整と報告
＊ガス・電気・水道の代理契約とその立ち合い(ガスのみ)
＊寄付金からエアコンの代理購入とその設置立ち合い

◎転入日決定後
＊引っ越し日、当人は入管関係者と共に名古屋へ。支援ネットワーク事務局にて対面（入管関係者はこの後帰京）

＊区役所各種届け出同行：転入届・国民年金・国民健康保険・場合によってはひとり親手当等の申請(本国証明書の日本語訳作成)
＊郵便局にて郵便物の転送届申請・銀行にて住所変更の申請
＊愛知県支援への申請の為、必要な個人情報を名古屋市へ共有
＊入居している市営住宅の自治会長や棟長への挨拶同行
→自治会のルール(自治会費や清掃・イベント等)やゴミの分別やその出し方についての説明
＊入居当日、不足している必要品の調達同行
＊民間企業より一部家財の支援を受けるため、希望品リスト作成や配達等の調整
＊自治会長より、当人に連絡してほしいことなど（配管掃除の日程の確認など）の伝達

◎帰国者・第三国出国者への対応
＊当人や入管庁と帰国日についてなどの打ち合わせ（各々）
＊市営住宅退去にあたり、家具家電の処理
→リサイクルショップへの売却（運搬も）・他避難者への譲渡（必要かどうかの確認とその運搬）
＊自治会長への退去日報告と挨拶
＊区役所へ転出届等、また郵便物へ郵送物停止の申請同行
＊外貨両替の同行
＊県からのレンタル品の預かりと返却届の記入案内・市営住宅鍵の預かりと退去届の記入案内
→記入用紙を各所へ届ける
＊帰国・出国当日の空港同行

【一般的な相談とその支援】

◎就労について
＊ハローワークへの案内や同行
＊求人先への問い合わせ
＊履歴書作成
＊面接同行・内定後連絡や、その後の対応について内定先との連絡
＊就労先からの連絡内容（有給についての説明等）を当人に伝達

◎病院同行
＊居住エリア内で、症状に合ったクリニックを複数探し、本人に希望の場所を選択してもらう
＊クリニックの予約と同行
＊問診票の代理記入と診察同行
＊調剤薬局にて受けた説明（服用の仕方など）を当人に伝達
＊（言葉の問題で当人が理由を伝えられない場合）就労先への欠勤連絡

◎中学校入学について
＊該当校へ問い合わせ・見学同行
＊入学前の提出書類の代理記入（就学援助申請・個票・健康調査票等）
＊必要用品（制服・体操服・通学靴等）の調達同行や経済的事情によりレンタルができるかどうかの確認
＊入学前後の教師からの連絡事項を当人に伝達
＊三者懇談の同行
＊進学相談や希望校への見学

◎その他
＊郵便物の内容を教えてほしい
＊マイナンバーカード申請補助
＊追加物資の調達と運搬
＊難民事業本部（RHQ）への電話補助
＊インターネット加入申込補助
＊在留資格更新申請や補完的保護認定者申請の同行
＊クレジットカードやデビットカードの申請補助
＊自転車の調達と防犯登録や保険加入の申請同行
＊スマートフォン購入の同行
＊民間支援団体（日本財団や似鳥奨学財団）への問い合わせや申請補助
＊日本語学校入学の問い合わせ・見学・入学手続きの同行
＊生活保護申請の同行
＊個人的な悩み相談

※【一般的な相談とその支援】は、関係性を築く中で聞かれた相談事項です。

どのような団体・専門家・支援者のつながりがありますか

名古屋市の支援登録（2022 年 5 月～2024 年 1 月）

◎支援物資の提供

【企業・団体】

支援登録数：65 件、マッチング総件数：164 件（2025 年 2 月末現在）

→民間企業、NPO 等の団体、日本語学校、大学・学校法人、

〇継続的支援の主な企業・団体名（敬称略 順不同）

・生活協同組合コープあいち：組合員による支援ネットワークへの活動支援寄付、食品の提供、運搬の協力
・Man to Man Assist 株式会社：日用雑貨／飲料水／食料品等の提供、就労に関する支援、ウクライナ避難者による穴水町でのボルシチ炊き出しの際の支援
・Man to Man 株式会社：就労に関する支援
・クレイン英学校：食料品／生活雑貨の提供、学生との交流、提供品の整頓 他
・株式会社山岸工務店：支援ネットワークへの活動支援金の寄付
・社会福祉法人名古屋ライトハウス：運搬の協力、食品の提供
・NPO 法人多文化共生リソースセンター東海：家財の提供
・愛知県歯科医師会：歯磨き粉／歯ブラシ等の提供
・想念寺：家財の提供、マルシェへの参加→表現の仕方
・整体、鍼灸の施術
・株式会社アナザーウェイブ：運搬の協力
・NPO 法人イエローエンジェル：支援ネットワークへの交流会活動支援金の寄付、コンサート招待

【個人】

支援登録数：208 件、マッチング総件数：195 件（2025 年 1 月末現在）

〇主な支援内容

・支援金贈呈
・生活雑貨の贈呈
・通訳の協力
・託児の協力
・イベントへの招待
・ヘアカット提供
・整体の施術
・運搬の協力

「情報共有会議」で報告した団体・専門家・個人

第 1回	NPO 法人シェイクハンズ	（松本さん）
第 3回	個人での受け入れ	（高橋さん）
第 5回	キーウ在住	（薮崎さん）
第 6回	チェルノブイリ救援中部　獨協医科大学特任教授）	（竹内さん）
第 8回	日本 YMCA 同盟	（横山さん）
	東京都都民生活部　地域活動推進課　活動支援国際担当	（小野さん・安達さん）
	海外災害援助市民センター（CODE）事務局長	（吉椿さん）
第 9回	きょうされん常任理事	（小野さん）
第 10 回	セイノーホールディングス（株）	（市橋さん）
	Man to Man　（株）	（布垣さん）
第 12 回	NPO 法人にわとりの会（小牧市）	
	（株）コケナワ	
	一般社団法人全国心理業連合会	（高溝さん）
第 13 回	至学館大学　秘書・広報室部門	（佐藤さん）
第 15 回	一般社団法人 JUNTOS	（吉村さん・山口さん）
	チアトル・ドーム	（白羽さん）
第 16 回	Merry Land	（清水さん）
第 17 回	読売新聞	（くわたさん）
	名古屋テレビ	（川村さん）
第 18 回	大交流会・相談会の専門家より	
第 19 回	東京都生活文化スポーツ局多文化共生推進課	（中尾さん）
	東京都つながり創生財団	（梅田さん）
第 20 回	NPO 法人 YOU-I	（山田さん）
第 22 回	Man to Man Assist（株）	（篠崎さん）
第 23 回	多文化ソーシャルワーカー	（神田さん）
	愛知県教育委員会語学相談員　継承語教育研究	（金箱さん）
	「愛知自主夜間中学はじめの一歩教室」夜間定時制高校　国語科教員	（笹山さん）
第 24 回	クレイン英学校	（原田さん）
	社会福祉法人日本国際事業団（ISSJ）常務理事	（石川さん）
第 25 回	Man to Man（株）	（布垣さん）
	NPO WELgee	（山本さん）
第 26 回	大交流会・相談会の専門家より	

専門的な支援に関わる団体・専門家・個人

2022 年度に行った「支援者支援」及び、「避難者の相談支援」として 2023 年・2024 年の大交流会・相談会で、分野（テーブル）ごとに対応された団体・個人を紹介します。

支援者支援

愛知県臨床心理士会
児童精神科医／愛知県療育医療総合センター

子どもの教育

児童精神科医／愛知県療育医療総合センター
名古屋国際センター
多文化ルーム KIBOU

健康・医療

愛知民主医療連合会（外科医）
愛知民主医療連合会（小児科）
愛知県臨床心理士会

日本語

ViVarsity
日本語教師
名古屋国際センター（日本語教育）

就労

Man to Man ㈱
NPO 法人 WELgee
産業カウンセラー
愛知労働局名古屋外国人雇用サービスセンター

手続き

名古屋出入国在留管理局在留支援部門
ウクライナを支援する愛知の司法書士有志の会
名古屋市

活動

情報やコミュニケーションではどのように工夫していますか

情報には、大きく分けて２つの種類があります。１つは「ストック情報」です。後から何度でも見返したり活用したりすることを目的として、重要な情報を収集・整理し、発信します。もう１つは「フロー情報」です。日々のお知らせなど、タイムリーな情報を随時発信します。支援ネットワークでは「ストック情報」には専用 Web サイトを中心に、情報拡散昨日を高めるために Facebook ページとブログ（note）を活用し、「フロー情報」には公式 LINE を活用しています。以下に、それぞれの媒体による情報発信状況をまとめました（件数等はいずれも 2025 年 1 月 22 日現在）。

Web サイト（https://www.aichinagoya-borsch.com/）

開設：2023 年 3 月
目的：情報提供、活動報告、支援情報提供
コンテンツ内訳：活動報告 19 件、募集情報 9 件、避難者向け情報 10 件、情報共有会議 26 件、映像ニュース 25 件、その他 3 件
投稿数合計：92 件

Facebook（https://www.facebook.com/borsch.net?locale=ja_JP）

開設：2022 年 6 月 27 日
目的：情報共有会議開催情報、支援のお願い
投稿数：74 件

note（https://note.com/borsch_net）

開設：2022 年 8 月 9 日
目的：情報共有会議における議事メモの掲載
投稿数：16 件

LINE 公式アカウント

利用開始：2022 年 10 月 7 日
目的：避難者・身元保証人への情報提供、避難者との相互のコミュニケーション
登録者数：179 名
投稿数：1,507 件
内容：イベント案内、物資支援情報、防災情報、公的支援情報

公式 LINE の特徴と登録

・避難者との対面時に公式 LINE を登録してもらっています。登録だけでは名前の表示もないため、名前と市町村を送信してもらい、個別にやりとりができる体制を構築しています。
・公式アカウントでのやりとりは担当以外のスタッフも閲覧できるため、サポート体制を充実させるだけでなく、個別 LINE によるトラブル防止にも役立っています。
・トークルームには「サポートしてほしい」「相談したい」をウクライナ語表記したバナーを貼り、会話を始めやすくする工夫をしています。

配信の工夫

・全ての配信は日本語とウクライナ語で作成しています。
・ウクライナ語での文章作成にあたり、頻繁に使う文章を「定型文集」としてまとめスタッフ間で共有し、迅速に情報提供できるようにしました。
・情報過多による避難者の混乱を避けるため、「配信カレンダー」をクラウド上に作成し、確認しながら配信しています。

効果

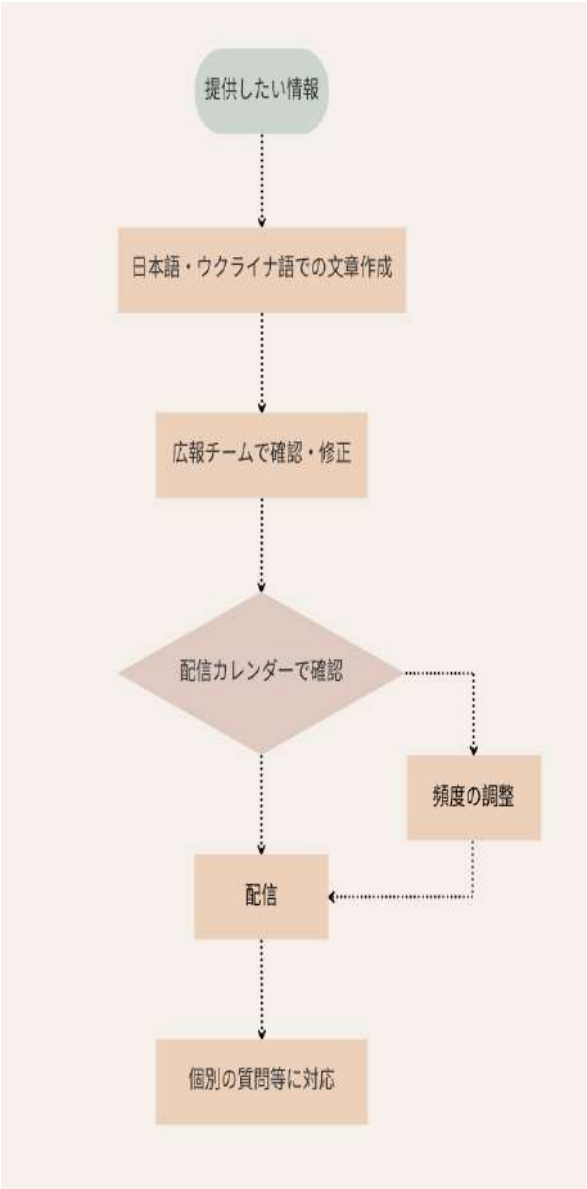
・LINE を利用したことにより、イベント等の案内だけでなく、地震後の声掛けや防災情報などの非常時の早急な対応が可能になりました。
・支援ネットワークからの発信だけでなく、避難者からの連絡も簡単に行えることから、コミュニケーションが円滑になりました。

配信例

：食料品の寄付のお知らせ、外国人のための会社説明会のご案内、NPO 法人による相談会のご案内、確定申告前の税務相談のご案内、交流イベント開催のお知らせ、台風接近時にできること

個別やりとりの例

：イベント参加のリマインド、イベントに関する質問、家具家電の相談、日本財団等の支援に関する質問、公的支援についての質問



活動

ネットワーク組織の運営は、どのように工夫しましたか

毎週（隔週）のオンラインミーティング

支援ネットワークメンバーはオンラインのミーティングを行ない、お互いの状況を共有し、支援情報を把握し、支援の漏れや重複をうまないための調整を行なっています。

コアメンバーと RSY ウクライナ担当事務局スタッフが参加するオンラインミーティングを 2022～2023 年度は毎週、2024 年度からは隔週で開催しています。適宜対面でのミーティングも開催し、支援ネットワークの方向性等を確認してきました。

一方、メンバーの多くは自身の運営する NPO や他の業務と兼業しており、日程調整が困難であったり、支援ネットワーク主体としての合意形成に時間がかかったりする課題も抱えています。

また、個別カルテ(P23-25 参照)を元に「読み合わせ会」を実施し、特に支援が必要な方や避難者の全体の現状について確認しました。避難者のうち名古屋市民の情報については、名古屋市国際交流課担当職員も参加し、協働体制を作ってきました。

LINE グループによる情報共有

支援ネットワークでは、オンラインミーティングの他に、コアメンバーと事務局スタッフが参加するグループ LINE で情報共有を行っています。従来のメールよりも迅速にやり取りをすることができ、特に、2022 年当初は昼夜問わず頻繁な情報交換をスムーズに行うことができました。

課題としては、過去のファイル類が保存期間をすぎると閲覧できなくなる、検索がしづらいなどが挙げられるため、検討が必要です。

「情報共有会議」の開催と成果

情報共有会議は「すでに各地域で様々な支援が実施されており、それぞれが大切な取り組みである」ことについて確認したうえで、以下の目的や願いのもと開催しています。(P16～18 参照)

・官民が持てる情報を共有する。
・互いの過不足を補い合う。
・共に連携・協力し合い、有益な支援につなげる。
・これらを通じて、＜避難者「一人ひとり」のいのち・暮らし（※）が守られる＞ことが願い。
※「暮らし」とは、「衣食住・モノ・お金・仕事・教育・医療保健福祉・心のケア・コミュニティ・言語など・・・」緊急的、そして中長期的な視点が必要。

支援ネットワーク発足の１ヶ月後に第１回目を開催しました。東海地域を中心に自治体、国際交流協会、社会福祉協議会、大学、マスコミ、企業、NPO／NGO や関心を持つ個人など 77 名が参加し、ウクライナ避難者支援に関心を持つ方々のネットワーク形成において基盤となる回となりました。その後、2022 年～2023 年度は毎月、2024 年度は隔月で開催、2024 年度末までに 27 回実施しました。

定期的に開催することによって、次のような効果が得られたと考えます。

・定期的な支援の呼びかけ、避難者ニーズの共有
・自治体、出入国在留管理庁、企業、NPO、官民の顔の見える関係性の維持／発展
・(特に自治体の場合) 異動による担当者変更の際の情報収集の場
・他地域での実践を共有し、東海地域に活かす。
・新規で支援ネットワークと連携、情報交換を希望する方への窓口
・避難者を取り巻く課題のフェーズが次々に変化していく中で、当該分野に知見のあるゲストから報告を聞き、今後も相談できる関係性

活動の財源は、どのように確保し、活用しましたか

財源確保の経緯

初動のネットワーク活動の根底には、財源確保より、まずは、人道的支援をできる人ができることをそれぞれの立場で行うという方向性があった。また、既に愛知・名古屋に避難してきて、生活基盤を整えたい避難者に対し、金銭面での支援が必要であり、個別支援に従事するためにはどうしても専従スタッフ（人件費が必要）の確保が必要との見通しになった。

名古屋市では、避難民への支援を望む市民の声をうけて支援スキームを検討していた。しかし、年度開始直後のタイミングであり、予算措置がない状況であったため、緊急的な措置として実行委員会（「名古屋ウクライナ避難民支援実行委員会」（名古屋市と公益財団法人名古屋国際センターの共同体）を受け皿とした寄付を財源とした迅速な支援を行う方針を決定していた。2022 年 4 月 2 日から始まった同実行委員会による寄付を募り、名古屋市は、避難民の生活資金に対して現金支給する活動を行った。

一方、中長期的には、個別の避難民支援と、市民からの支援の申し出（ボランティア活動、物資提供等）を調整できる委託先をさがしていた。

このような名古屋市と支援ネットワークの双方の想いが合致したことがきっかけとなったことに加え、事務所の場所を探していた JUCA が、5 月から RSY の事務所の一室に事務所を構えることが決まり、JUCA との連携が重要視される中、この調整役として業務委託されることが正式になった。緊急的な実行委員会からの委託を経て、2022 年 6 月に補正予算が承認され、名古屋市から市内在住の避難民支援を請け負うこととなった。委託先が RSY となった背景には、支援ネットワークの事務局であることと、JUCA と隣り合わせに事務所があり、最も強固な連携ができることが評価された点などが挙げられる。

加えて、同時期の 2022 年 4 月に日本財団からウクライナ避難民支援者への助成を行うとリリースされた。名古屋市の委託では、名古屋市以外の市町の避難民支援の活動費は賄えないため、日本財団への申請も行った。その際、個別支援事業と支援者どうしの情報共有事業の 2 本を申請し、7 月 1 日からの活動を対象に採択された。この間、日本財団主催のウクライナ避難民支援の現状と課題を共有するシンポジウムに支援者として登壇し活動報告をする機会をいただいたことは、支援ネットワークの愛知県での活動が広くに知られる一助となった。

長年、国内外で自然災害が起きた際、すぐに組合員に募り、集まった寄付金を日赤などの特定公益法人だけでなく、RSY を含む NPO にも寄付する土壌のあった生活協同組合連合会アイチョイスは、RSY がウクライナ避難民支援に携わっていることを知り、寄付の申し出をいただいた。当初から食材提供や運搬支援などをしてきた生活協同組合コープあいちは、2023 年と 2024 年に、組合員に呼びかけて寄付を募る企画を実施し、全額を支援ネットワークへ寄付いただいた。

資金源の目途はないまま活動を開始したが、半年たつ前に、自治体委託／民間助成／民間寄付という種類の異なる資金を得ることができたことは、活動の幅を広げられる要因となった。

資金源	2022 年度	2023 年度	2024 年度
委託費	660 万円	700 万円	560 万円
助成金	600 万円	970 万円	(568 万円ネットワーク事業分)
寄付金	570 万円	770 万円	580 万円

2022年、2023年、2024年の3年間は、このバランスが維持できているが、避難民は愛知県内だけで12自治体に散住しているにもかかわらず、業務委託は名古屋市からにとどまっていること、日本財団も2024年以降は、ウクライナのみに特化した支援に対する助成を行わなくなっており、寄付金もいつまで続くか未知数である。今後の資金確保には、別の助成団体や寄付先の開拓が課題である。

特徴的な経費等

まずは、スタッフ人員の確保が急がれた。名古屋市からの業務委託事業（個別支援、支援登録窓口）や、助成金事業（名古屋市以外の個別支援、支援者同士の情報共有など）を行うにあたり、専従スタッフが必要であったが、5月に活動を公表した段階で支援ネットワークのメンバーが1人、6月からネットワーク団体からもう一人増員となったがいずれもフルタイムではなかったため、不足分の対応は、RSYのスタッフが対応した。

7月からは、新たにフルタイム勤務の人員が見つかり、ようやく体制が整っていった。さらに2023年1月からは、ロシア語のできるスタッフが加わり、よりきめ細かい個別支援ができるようになった。

通訳／翻訳費（外部委託）は、額は大きくないが、外国人支援であったので必要であった費目である。三者通話による通訳や、お知らせ文の翻訳などである。ただし、避難者との直接のやり取りが頻繁になるに連れ、Google翻訳等のツールと片言の日本語／ウクライナ語でのコミュニケーションが取れるようになり、2024年度途中で、外部委託は終了とした。

交通費は、避難者を訪問する際のスタッフ移動費に加え、相談のため、事務所に来る避難者の交通費を支給している。避難者が相談しやすい環境のひとつと言える。

公営住宅は無償提供に加え、更に名古屋市は風呂釜設置まで住宅供給公社が行うという、異例の対応であったが、それ以外の家具・家電等は原則個人負担である。そのギャップを埋める形で、企業（㈱PPIH、㈱良品計画、近藤産興㈱、名鉄協商㈱）から、家具・家電・自転車を無償提供していただけた。ただ、これら提供品の中にエアコンはなかったが、支援ネットワークとして、愛知、名古屋の夏を過ごすのにエアコンがないことは生死にかかわる問題であるとの判断から、依頼があれば住居へのエアコン設置を行ってきた。

なお、寄付金の一部は、ウクライナ支援に使途を限定した基金として積み立てた。